

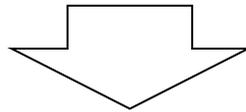
**J. TEST 実用日本語検定
随時試験プログラム**

「外国人従業員の日本語研修の成果を測りたい」

「人事評価に使える語学スキルの判定材料が欲しい」

「学生の今の実力が知りたい」「日本語学習の目標がほしい」

そんなときは…



J. TEST 実用日本語検定 随時試験プログラム

をご利用ください。

J. TEST 事務局／日本語検定協会

〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-42-18 日高ビル 8F
TEL. 03-5875-1231 FAX. 03-5875-1232 ip@j-test.jp

■ J. TEST とは

- ・ J. TEST 実用日本語検定は、外国人の日本語能力を客観的に測定する試験として、1991年から実施され、国内外で400以上の企業、教育機関で利用されています。
- ・ 国内外50以上の都市で、年6回実施される公開試験と、教育機関が会場になって実施される準会場試験、各団体で実施する随時試験があります。

■ J. TEST 随時試験プログラムとは

J. TEST を企業・学校・団体に、いつでも実施できる制度です。

< J. TEST 随時試験の特徴 >

■ 試験は2種類

中級～上級者向けの「A-Dレベル試験」と初級者向けの「E-Fレベル試験」があります。それぞれの試験で点数によってレベルを判定します。

■ 「実用的」かつ「実践的」な日本語力を測定

「生きた表現」を多く取り上げ、聴解試験の比重が高い試験です。実践的な日本語力を測定します。また、難易度が一定なので、何度も受けることによって日本語力の進歩がわかります。

■ 各団体で、試験会場・試験日を自由に設定

貴団体のご都合に合わせて、実施したい日時、実施したい場所で試験を行えます。

■ 年6回まで実施可能

複数回実施することで、各受験者の成績の伸びもわかります。

■ 公開試験より安い受験料

受験者1名あたり3,000円で実施できます。ただし10名以下の場合には一律30,000円申し受けます。

■ 日本語能力試験N1以上の日本語力も測定可能

日本語能力試験N1合格は、J. TEST では650点～700点に相当します。

N1以上の日本語力は、特A級～準B級で判定できます。

■ 3営業日後に成績発送

受験者全員の随時試験専用「成績表」を発行します。ただし認定証は発行されません。

団体・学校用に「成績一覧表」(Excelデータ)をメールでお送りします。

随時試験専用の成績表は、入国管理局提出書類や大学入試提出書類としては利用できません。

※申し込み人数が301名以上の場合は、成績発送まで下記の日数がかかります。

301～450名 4営業日後

451～600名 5営業日後

以後150名ごとに1営業日増えます。

■ 随時試験と公開試験の違い

「随時試験」と、「公開試験」の違いは以下の表の通りです。

※日本国内でのお申し込み・実施の場合です。

※海外からのお申し込みや、海外で J. TEST 随時試験を実施される場合には、料金等が異なります。

	J. TEST 随時試験（国内）	J. TEST 公開試験（国内）
試験の種類	A-D レベル試験 E-F レベル試験	A-C レベル試験 D-E レベル試験 F-G レベル試験
受験料	当日受験者 1 名あたり 3,000 円 ※ただし 1 名～9 名の場合は、一律 30,000 円申し受けます。	A-C レベル…4,800 円／名 D-E レベル…4,800 円／名 F-G レベル…4,800 円／名
試験会場・ 実施日時	貴団体のご都合に合わせて、 随時設定 ※1 年間に最大 6 回まで実施するこ とが可能です。	J. TEST 事務局が指定（年 6 回） （F-G レベル試験は実施しない回 があります）
受験人数	何名でも可	何名でも可
試験問題	試験終了後に回収	持ち帰り可
正解	非公表	試験後に公表
申込手順・ 実施の流れ	FAX、メール添付、郵送 ※原則として試験日の 4 週間前ま でにお申し込みください。	インターネット、郵送、来店 ※実施予定日ごとの締切日をご確 認ください。
結果発送予定日	解答用紙が当事務局に到着してか ら、3 営業日後 ※申し込み人数が 301 名以上の場合 301～450 名 4 営業日後 451～600 名 5 営業日後 以後 150 名ごとに 1 営業日増えます。	試験日の約 1 か月後
送付資料	成績表 成績一覧表（Excel データ） ※ <u>認定証は発行されません。</u>	成績表 個人成績表 参考資料 認定証（レベル認定された場合のみ）

（注）2020 年 4 月実施分より、随時試験では A-C レベルと D-E レベル試験を実施致します。

詳細につきましては <http://j-test.jp/newjtest> をご覧ください。

■ 随時試験申込手順・試験実施の流れ

① 随時試験申込書を入手する。

ホームページ中の「随時試験実施要項・申込書」をクリックし、ダウンロードしてください。



② 申込書を送る。

申込書に必要事項をご記入の上、下記 J. TEST 事務局まで F A X かメール添付、または郵送でお送りください。試験日の 4 週間前までにお申し込みください。

※試験実施日まで 4 週間以内の場合はご相談ください。

※試験実施 4 週間前までに受験者数が確定していない場合もご相談ください。

J. TEST 事務局／日本語検定協会

〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-42-18 日高ビル 8F

FAX:03-5875-1232 / MAIL: ip@j-test.jp



③ 受験者名簿を送る。

お申し込み後、当事務局より受験者名簿のフォームをメールでお送りしますので、必要事項をご入力の上、ご返送願います。



④ 試験問題・試験実施の手引きが届く。

試験実施日の 5 日前までに到着するように発送します。試験実施の手引きの内容をよく確認しておいてください。



⑤ 試験を実施する。

試験会場及び試験監督は、各実施団体でご用意ください。

試験当日は「試験実施の手引き」にしたがって、会場の設営・試験の実施をお願い致します。



⑥ 問題用紙、解答用紙を回収し返送する。

問題用紙は試験実施後に全て回収し、解答用紙・CD と一緒に返送してください。

※送料はご負担願います。



⑦ 成績表が届く。

解答用紙が当事務局に到着してから 3 営業日後（申し込み人数 300 名以内の場合）に、受験者ごとの成績表とメールで成績一覧表をお送りします。



⑧ 受験料を振り込む。

成績表と同時にご請求書を送付いたしますので、下記の口座に、記載された受験料をお振り込みください。
(手数料はご負担願います)

※ご入金後の返金はできませんのでご注意ください。

三菱UFJ銀行 市ヶ谷支店 普通 0189122
口座名義 (株) 語文研究社

※領収書が必要な場合は、お申し込み時にお知らせください。

■ A-Dレベル試験 … 中級～上級対象（随時試験）

・ 1000点満点で点数によって能力を特A級～準D級、認定なしの9段階で判定します。

【出題内容】

読解試験 80分 (500点)	聴解試験 約45分 (500点)
1 文法・語彙問題	1 写真問題
2 読解問題	2 聴読解問題
3 漢字問題	3 応答問題
4 記述問題	4 会話・説明問題

【点数と評価】

1000点満点（読解500点、聴解500点）

<特A級> 930点以上

様々な分野、場面において、専門的な話題も理解し対応できる高度なコミュニケーション能力がある。

<A級> 900点以上

様々な分野、場面において、専門的な話題も理解でき、十分なコミュニケーション能力がある。

<準A級> 850点以上

様々な分野、場面において、一般的な話題をほとんど理解でき、十分なコミュニケーション能力がある。

<B級> 800点以上

一般的な分野、場面において、十分なコミュニケーション能力がある。

<準B級> 700点以上

会社や学校において、十分なコミュニケーション能力がある。

<C級> 600点以上

会社や学校において、基本的なコミュニケーション能力がある。

<D級> 500点以上

会社や学校において、限定的なコミュニケーション能力がある。

<準D級> 400点以上

日常生活の限られた場面で、基本的なコミュニケーション能力がある。

<認定なし> 400点未満

*日本語能力試験N1 = 650点～700点

*日本語能力試験N2 = 550点～600点

*日本語能力試験N3 = 400点～450点

■ E-F レベル試験 … 初級対象（随時試験）

・ 500 点満点で点数によって能力を E 級、F 級、認定なしの 3 段階で判定します。

【出題内容】

読解試験 70分 (300点)	聴解試験 約30分 (200点)
1 文法・語彙問題	1 写真問題
2 読解問題	2 聴読解問題
3 漢字問題	3 応答問題
4 記述問題	4 会話・説明問題

【点数と評価】

500 点満点（読解 300 点、聴解 200 点）

< E 級 > 350 点以上
初級レベルの日本語の範囲ならば、コミュニケーションができる。

< F 級 > 250 点以上
初級レベル前期の日本語の範囲ならば、何とかコミュニケーションができる。

< 認定なし > 250 点未満

* 日本語能力試験 N4 = 350 点～

* 日本語能力試験 N5 = 250 点～

■J-TEST 随時試験を海外で実施する場合

◇中国・韓国・タイ・ベトナム・インドネシアからの申し込みは直接現地事務局までご連絡ください。

◇その他の地域からの申し込み

試験の種類 : A-Dレベル試験、E-Fレベル試験

受験料 : A-Dレベル、E-Fレベルとも1名につき 35 USD (アメリカドル)

原則、合計人数 15名以上で、実施可能です。

※ 15名未満の場合は最低実施料金 (525 USD) で実施可能です。

お支払方法 : 国際郵便為替 (Money Order) または銀行送金でお送り下さい。

※手数料は受験料から引いてください。(送金書のコピーをお送りください)

試験会場 : 各団体で任意に設定してください。

試験実施日時 : 各団体で任意に設定してください。

お申し込み方法 : 申込書に必要事項をご記入の上、FAXかメール添付、または郵送でお申し込みください。

※ 試験実施日の4週間前までにお申し込みください。

お申し込み後、受験者名簿のフォームをメールでお送りしますので、

必要事項をご入力の上、ご返送をお願いします。

問題等送付先 : 試験問題等は事務局よりEMSまたは国際宅急便で直接海外へお送りします。

試験問題 : 試験終了後に回収いたします。解答用紙と一緒にご返送ください。

成績通知 : 解答用紙が事務局に到着した翌営業日から数えて3営業日後に発送します。

※申し込み人数が301名以上の場合は、下記の通りです。

301~450名 4営業日後

451~600名 5営業日後

以後150名ごとに1営業日増えます。

送付資料 : J. TEST 実用日本語検定-随時試験プログラム成績表... (全員)

※公開試験の場合とは異なり、成績表には随時試験プログラムであることが明記されます。

成績一覧表 (メールにて送付)

送金先

- * GOBUN KENKYUSYA Co., Ltd.
- * HIDAKA Bld. 8F, 1-42-18 Kameido, Koto-Ku, TOKYO, JAPAN
- * 郵便番号 136-0071
- * 電話番号 +81-3-5875-1231 FAX 番号 +81-3-5875-1232

銀行口座

- * MUFG Bank, Ltd. ICHIGAYA Branch * SWIFT code BOTKJPJT
- * GOBUN KENKYUSYA Co., Ltd. * ACCOUNT NO. 014-0189122

申込書送付先

J. TEST OFFICE
HIDAKA Bld. 8F, 1-42-18 Kameido,
Koto-Ku, TOKYO
136-0071, JAPAN

FAX **+81-3-5875-1232** (TEL. +81-3-5875-1231)
MAIL **ip@j-test.jp**

〒136-0071
東京都江東区亀戸 1-42-18 日高ビル 8F
J. TEST 事務局 / 日本語検定協会

FAQ

Q：受験者は問題用紙をもらえますか。

A：差し上げることはできません。随時試験では、問題用紙はすべて回収致します。
公開試験では持ち帰ることができます。

Q：試験監督は誰がしますか。

A：随時試験の場合は、会場及び試験監督は、実施団体でご用意いたします。

Q：随時試験の成績表は、なぜ入国管理局提出書類や大学入試提出書類として使えないのですか。

A：試験監督が実施団体に委託されているため、公的機関に提出することはできません。
企業や団体内の評価としてご活用ください。

Q：試験を実施する前に、受験者に勉強させたいのですが。

A：公開試験の過去問題集が発売されています。（随時試験も形式や難易度は公開試験と同じです）

Q：成績表には1問ごとの正解・不正解が書かれていますか。

A：書かれていません。各分野ごとの点数のみ記載されています。

Q：試験は何回実施してもいいですか。

A：随時試験は、年6回まで実施できます。問題は難易度が一定になるように作られていますので、
何度も受ける事で、日本語力がどのくらい伸びたかがわかります。

Q：使用する問題はいつも同じですか。

A：いいえ。実施ごとに違う種類の問題を使用します。

Q：海外で試験を実施しますが、日本で受験料の支払いや問題等の受け取りはできますか。

A：はい。このような場合は日本国内での実施と同じ扱いになります。

Q：試験実施日を2日に分けてもいいですか。

A：はい。問題使用期限の2か月以内でしたら可能です。ただし、成績表は2日分まとめて発行いたします。
事前にご相談ください。

Q：J.TEST 随時試験は、どのような団体で、どのように利用されていますか。

A：企業では、企業内の新入社員の能力評価、語学研修の成果確認、人事考課の資料などとして、
大学・専門学校・日本語学校等では、入学者の能力評価、授業や試験の一環などとして、
日本語教室・国際交流団体では、学習成果の確認などに幅広く利用されています。

Q：他の日本語の試験との違いは何ですか。

A：新聞・雑誌の記事、社内や家庭での会話、グラフや図の読み取りなど、実用的な日本語を多く扱っています。
また、記述式問題で、作文の能力も測れます。